

学校名	山形市立第九中学校 山形市大字津金沢字中谷地657 TEL688 - 2220 FAX688 - 9045	校長	本間章夫
		研究主任	石山泰規
研究主題	よりよい生き方を求めて～地域に生きる生徒～（6年次） 必修教科の中で基礎・基本の定着のための指導法		
研究課題設定の理由	【主題設定の背景】 現代社会における中学生は、1.学習離れ、知離れ、2.判断力の低下、3.人との関わり不足、4.社会性の欠如、5.学ぶ喜びの欠如といったことがあげられる。 本校はこれまで地域との関わりを生かし、地域の教育力を積極的に取り入れ、人間としての資質向上を大切に取り組んできた。 今後、学習の良さ、学習の喜びを身につけ、生きる力を身につけた生徒の育成を目指し、基礎基本の定着を大切にしながら、授業の改善を積極的に行い、生涯学習の基礎づくりをねらって、本主題を設定した。 【今年度の副題設定について】 [1] 学校教育目標の具現化の観点から (1) 学習指導要領から 改訂のねらい「自ら学び、自ら考える力の育成、基礎的基本的な内容の確実な定着」を具現化する。 (2) 学校教育目標および目指す生徒像から 力をつける学校として ・基礎・基本の確かな学力をつける学校 ・自ら学び考える力、表現力をつける学校 を掲げ、具体的には、授業の充実で、基礎・基本と考える力、表現力の育成を図る。 (・精選と見通しのある授業・討論のある授業・問題解決的な授業)を推進する。 [2] これまでの研究から (1) 「総合的な学習の時間」の実践から 成果：自己の課題解決型の学習の中で、日々の教科学習の重要性を感じる生徒が多くなった。 課題：必修教科と「総合的な学習の時間」の関連を一層明確にする必要がある。 (2) 選択教科の実践から 成果：新学習指導要領に応じた開設により、発展と補充という内容を意識しあうことができた。 課題：生徒が教科を選択し、また深めていくためには、学びにおける教科の本質的な面白さを意識できることが大切である。 (3) 必修教科の実践から 成果：教科の特性に応じて、「基礎・基本の定着」をめざして、授業研究会を行い、教科の枠を超えた指導法のヒントを共有化することができた。 課題：あらゆる学習の根本は、必修教科における基礎基本であり、その深化こそ重要である。 これまでの実践の中で、生徒自身の生きる力、課題解決能力、社会性の伸びはみられる。ただ、「総合的な学習の時間」の実践、選択教科の実践の中でも、必修教科での学習を生かしきれない実態である。 必修教科をベースとし、選択教科で【学びのおもしろさ】、「総合的な学習の時間」で【学びの応用】を認識させ、そこから【学びの重要性】に気づかせることを考えて実践してきたが、これらは必修教科の「基礎・基本」があって初めて成り立つもので、さらに必修教科の研究の重要性が浮かび上がってきた。		
研究目標	学習活動の根本的な力を、必修教科の力ととらえ、基礎・基本の定着のための基本的な指導法を確立するとともに、各教科の中で自ら学び考える力、表現力を育成するために、指導過程の工夫を行っていく。		

研究 仮 説	日々の必修教科における授業の中で、指導過程を明確に意識して授業改善に取り組むことにより、基礎・基本の定着が図られ、考える力や表現力、自ら学ぶ姿が育成されるであろう。
研 究 の 方 法	[1] 必修教科の研究 (1) 指導過程の工夫 ・1授業の中の指導過程の基本的な流れをつくる。(共に学ぶ) 個人 → 多様性 → 練り合い → 解決 → 振り返り (個としての課題把握) (様々な考え方の出し合い) (調べ方、他との議論) (課題解決) (知識理解の確認) 必要に応じて、上記の要素を組み合わせた指導過程を創造する。 (2) 単元計画、発問、指示計画、板書計画の改善 ・学習指導案を作成し、これまで以上に綿密な指導計画を立てる。 (授業時数減に伴う時間数を見通した指導計画を作り上げる。) (3) 授業研究会の実施 ・教科部会の中で、互いに授業を公開し合い、指導法を検討する。 ・全体研究会を実施し、全体で指導法を検討する。(今年度は英語) ・T, T授業の推進 [2] 「総合的な学習の時間」の研究 ・学年毎の学習形態により、発達段階に応じた単元構成を積み上げるとともに、学校としてのカリキュラムを確立し、実践を積み重ねる。 [3] 道徳 ・文部科学省から支給された「心のノート」を活用した授業の情報交換を行う。 [4] 選択教科 ・発展的な学習、補充的な学習に分け開設し、選択方法、指導内容について実践の中からそれぞれのあり方を検討する。 [5] 特別活動 ・各学級の学級づくりに関わる資料を集め、全体のものとする。 今年度は、必修教科の研究を中心に行うが、研究推進委員会、各小部会を定期的に関き、研究の方向性、活動内容を修正しながら進めていく。
研 究 計 画	4月 今年度の研究内容の確認 「総合的な学習の時間」の方針決定 5月 教科研究の年間計画説明会(教科毎の意見交換の実施) 6月 各教科毎、授業研究会 7月～校内研修会(今求められる教育のありかた) 教科の研究目標設定の意見交換研究会 8月 校内研修会(学級づくりについて講演会を実施) 10月 校内研修会(エンカウンター生徒指導講習会) 11月 授業研究会(全体会)・・・英語 12月 校内研修会(身近な人の講演会) 1月 校内研修会(今年度の総合の時間についての意見交換会) 2月 研究のまとめ 研究推進委員会、教科部会、総合部会、学年部会を定期的に実施する。